

愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会

**GPS魚群探知機による
長良川下流部河床形状の観測**

2014年6月3日

塩害千一△

今本博健 藤井智康 大橋亮一

長良川のしゅんせつと塩水の侵入防止

河口堰の
必要理由

マウンドにより
塩水の遡上が
阻止されていた

治水に必要な
浚渫をすれば
塩水が遡上する

塩水の遡上を
阻止するには
河口堰が必要

しゅんせつ及び河口堰建設前

(塩水は河口から約15km付近のマウンドでほぼ止まっている)

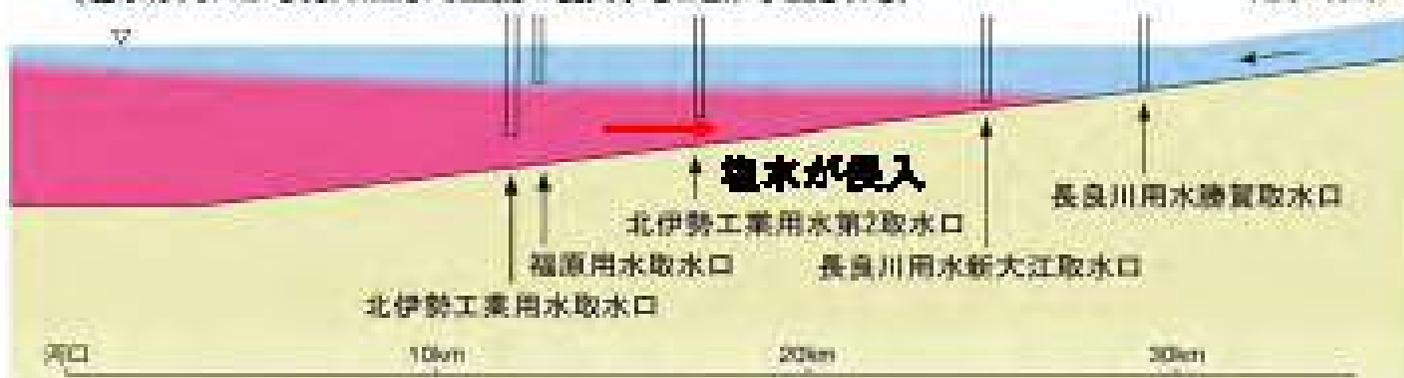
(模式図)



河口堰がなく長良川をしゅんせつした場合

(塩水は河口から約30kmまで上流へ侵入することが予測される)

(模式図)



河口堰完成後

(潮止めをしてマウンド等のしゅんせつをする)

(模式図)



マウンドの実態



The old mound situated about 14 to 18 km from the river mouth. It used to emerge at low tide during flood tides.



The mound section of the Nagara before dredging



The mound section after dredging (photographed in September 2000)

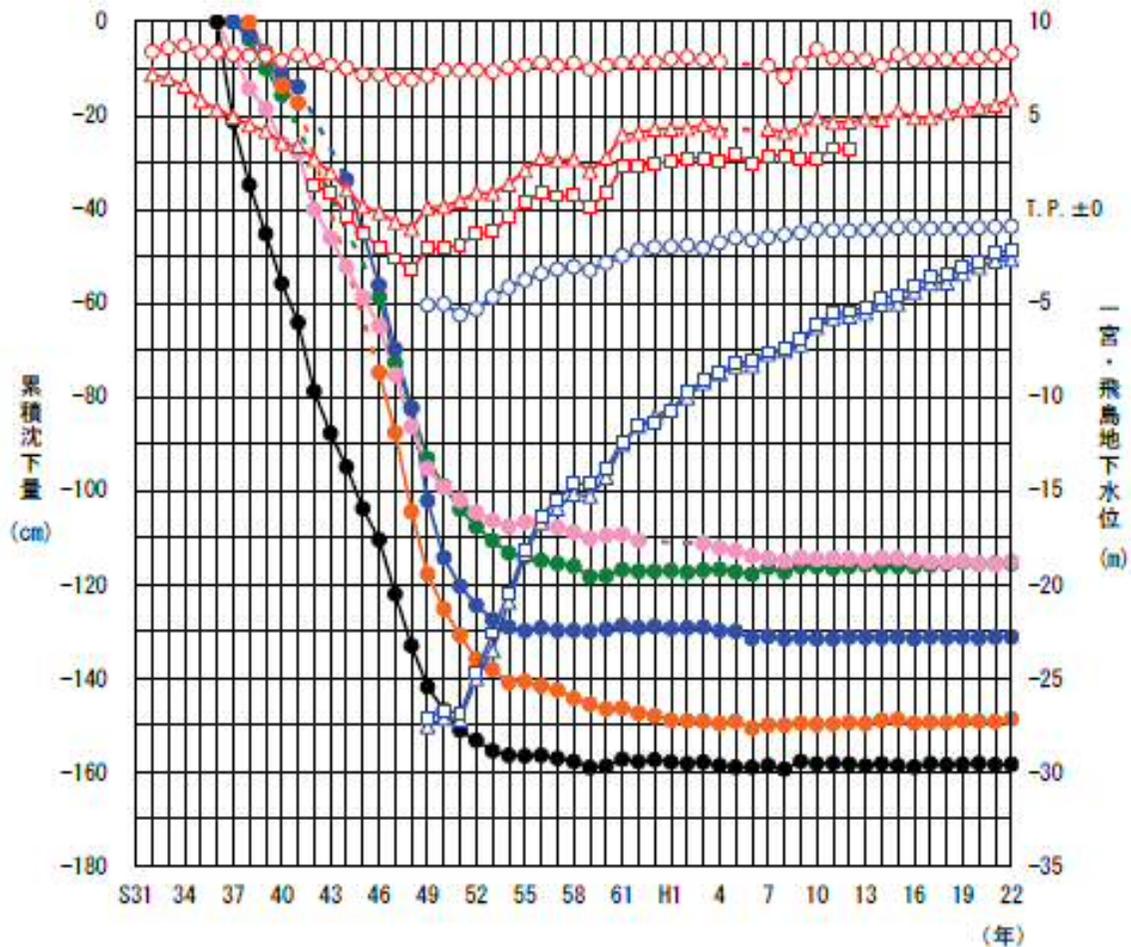
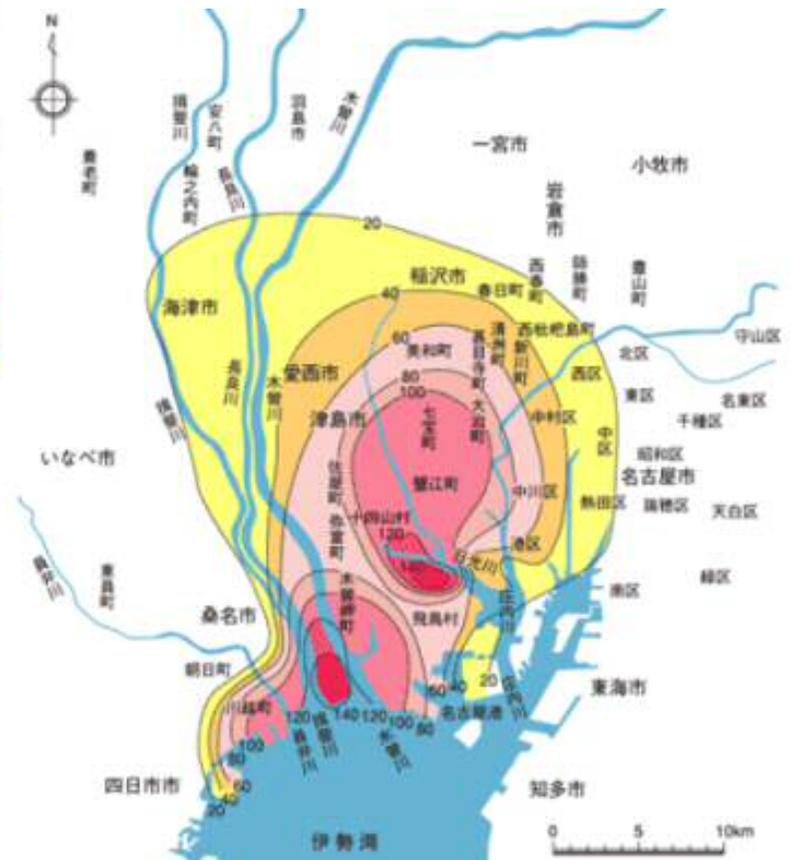


図-5 水準点の累積沈下量と地下水位観測所の年平均地下水位



昭和36年から平成16年の
累積地盤沈下量(cm)

- ・一宮気象水象観測所
所在地：一宮市大字高田宇郷郷
- ・飛鳥観測所
所在地：海部郡飛鳥村飛鳥新田

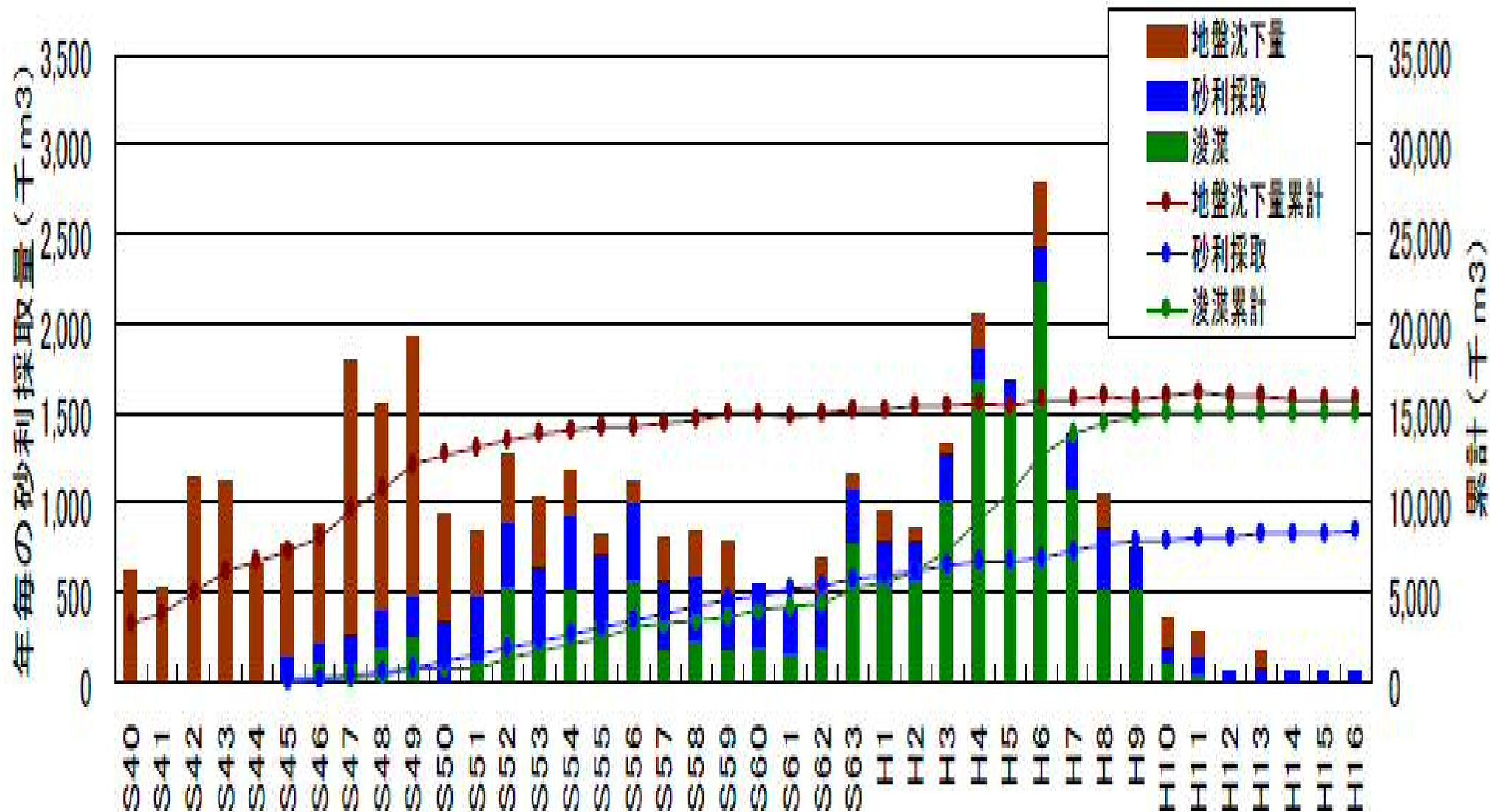
No	記号	観測点	所轄
(a)	○	一宮 7a井	東海農政局
(b)	△	一宮 70a井	東海農政局
(c)	□	一宮 260a井	中部経済産業局
(d)	○	飛鳥 60a井	愛知県
(e)	△	飛鳥 150a井	愛知県
(f)	□	飛鳥 300a井	愛知県

一宮260a井はH13年に計測終了

・水準点

No	記号	水準点名	所在地	S.36~H.22 累積沈下量 (cm)
(A)	●	C36-16	三重県桑名市長島町白鳥	168
(B)	●	A3-4	愛知県弥富市神戸七丁目	149
(C)	●	N 201	愛知県名古屋市港区新茶屋四丁目	131
(D)	●	W 1	三重県桑名市太平町	116
(E)	●	C36-9	三重県桑名郡木曽町大字御殿輪中	115

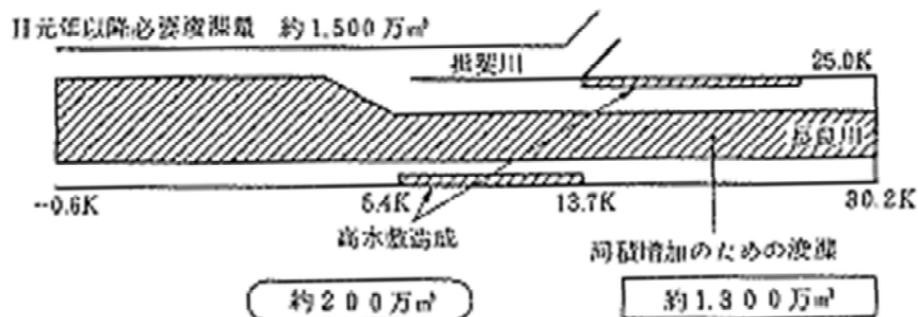
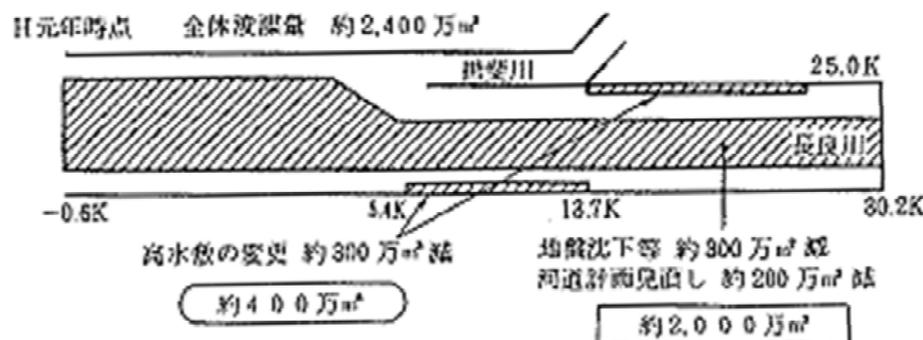
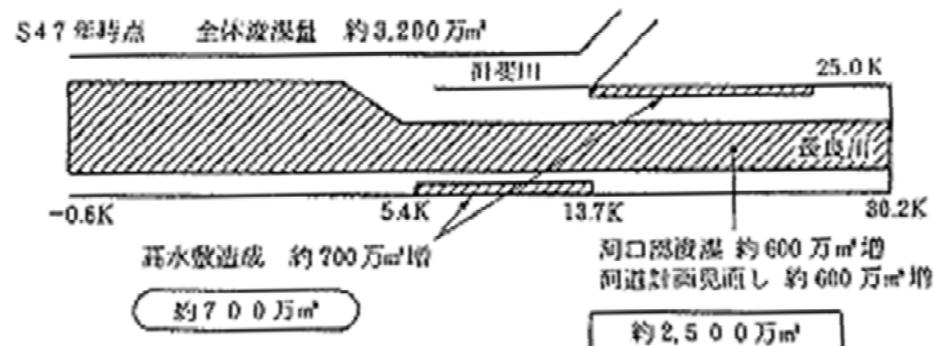
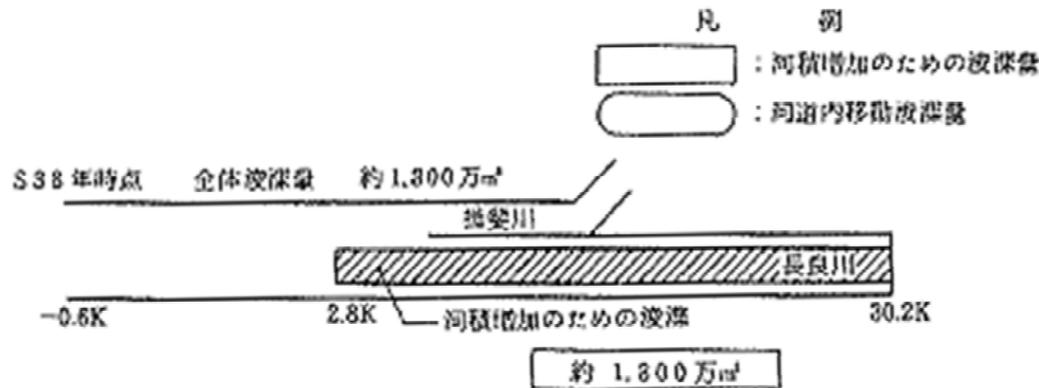
水準点の累積沈下量と地下水位観測所の年平均地下水位



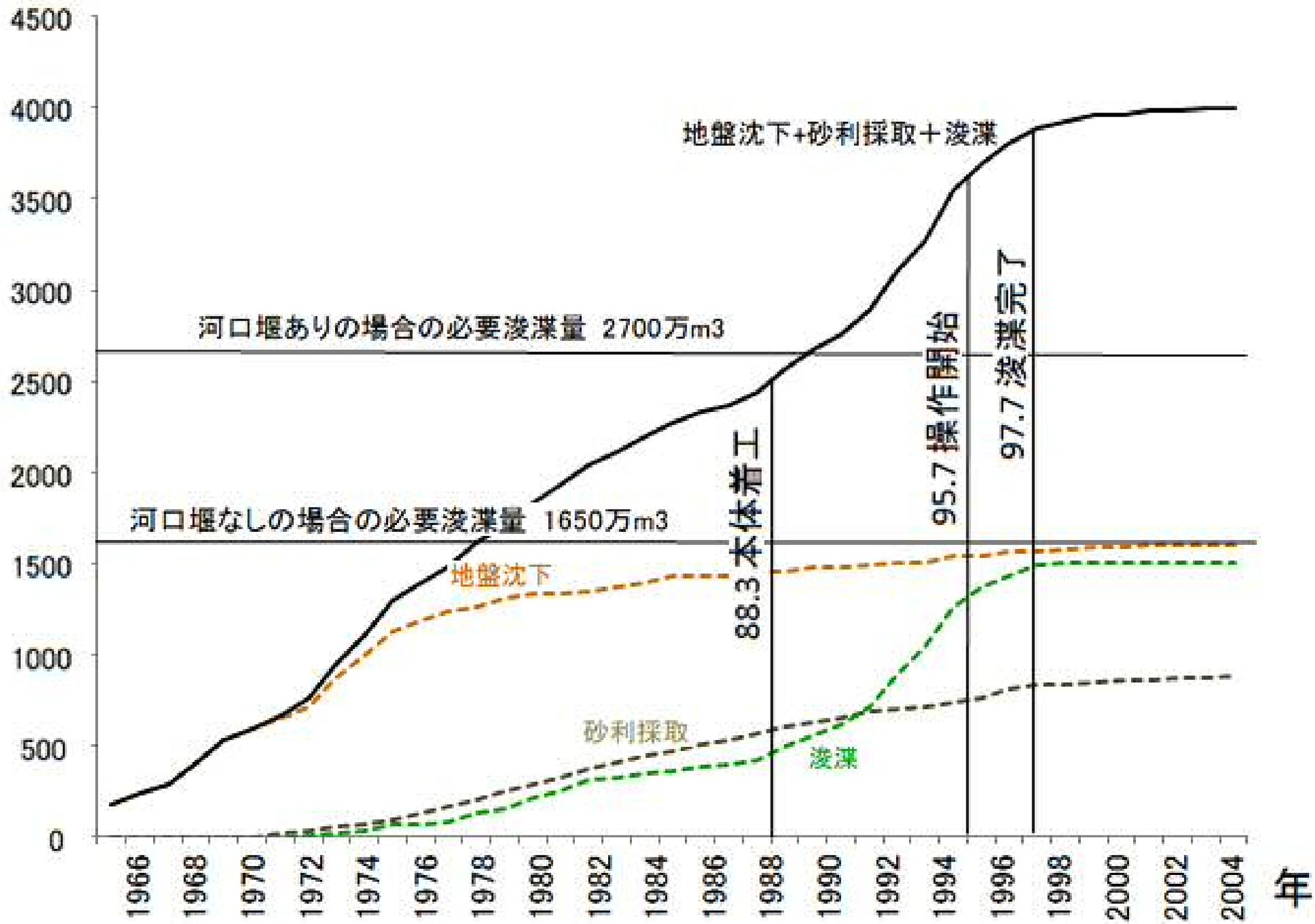
河床変動要因の経年変化(長良川)

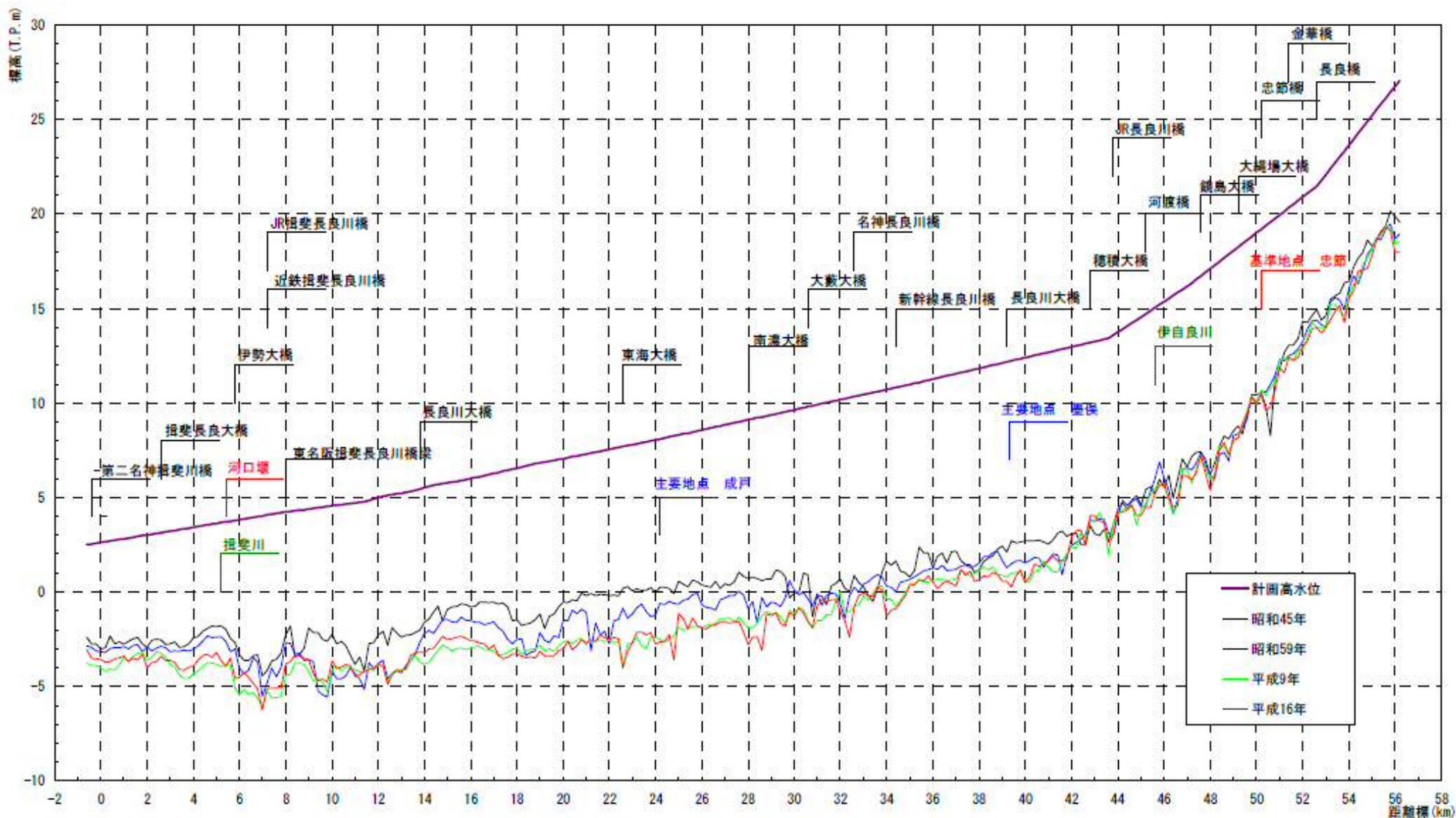
※浚渫量は、揖斐川河口部を含む

浚渫計画量 の変遷



累積河積増大量(万m³)





長良川平均河床高